道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル 創る

Vol.26

2023.12

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

CONTENTS

特集

01 地域の歴史的魅力や特色を地域活性化につなげる／日本遺産

江差町観光まちづくり協議会/石狩市・小樽市・函館市・松前町/大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会
炭鉄港推進協議会/鮭の聖地メナシネットワーク協議会/小樽市

05 地域が動く・プロジェクト最前線

■置戸町　温泉入浴施設「ゆぅゆ」を拠点とした観光振興
　～トレーラーハウスでアウトドア層の取り込みを～

07 知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介
「なおみちカフェ」から　～地域創生のヒントを探る～

■釧路編　■根室編

09 地域に新たな風を吹き込む
地域おこし協力隊へのインタビュー

■ 白老町　羽地　夕夏さん
■ 岩見沢市　藤嶋　裕介さん

特集 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を地域活性化につなげる

日本遺産とは

「日本遺産」は、地域の有形・無形の文化・歴史のストーリーを文化庁が平成29年度より認定し、現在１０４件のストーリーが認定されています。

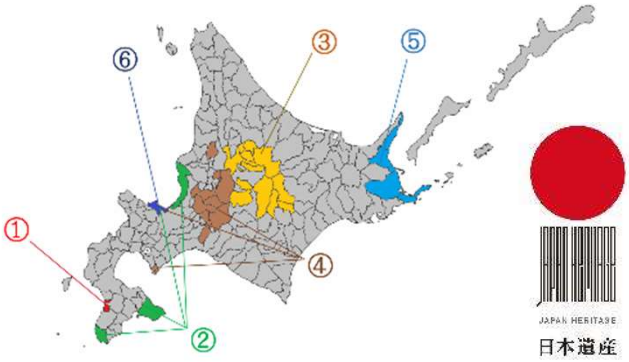
このストーリーの下、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信していくことにより、文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るものです。日本遺産に認定されると、当該地域の認知度が高まるとともに、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域のブランド化等にも貢献し、地方創生の取組にも資することが期待できます。

北海道の認定状況

北海道には、５箇所の認定地域と１箇所の認定候補地域（日本遺産として認定する候補となり得る地域）があります。

それぞれの地域では、関係者一同が参画した協議体を設置し、ストーリーの磨き上げを日々行っています。

北海道では、各協議会と連携し、体験型ＰＲイベントや関係者の研修会などを開催し、日本遺産の魅力、価値を伝える取組を行っています。



①江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～
②荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～
③カムイとともに生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
④本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～
⑤「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～
⑥北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～【候補地域】

①江差の五月は江戸にもない ～ニシンの繁栄が息づく町～

江差町観光まちづくり協議会

ストーリー

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りには、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられています。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえます。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とニシン加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでありました。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く息づいています。

■主な構成文化財

かもめ島、姥神大神宮、江差追分、江差の町並み、姥神大神宮御渡祭

▶江差の町並み

◀姥神大神宮渡御祭

地域活性化に向けて

ニシン漁と交易で繁栄した江差には、これまでにたくさんの有形無形の文化財が保存・伝承されてきており、その中でも北海道遺産にも認定されている「姥神大神宮渡御祭」や「江差追分」などの構成文化財のそれぞれが地域住民の「普通に日常にある」ものであり、これらを後世に保存伝承していくこと、そして全国各地の大勢の「江差ファン」を大切に、これからも多くの方々が江差町に興味を持ち、お越しいただけるように、歴史ある文化を保存・伝承・活用していくことが必要です。

認定ストーリーをより分かりやすく、伝わりやすくするための工夫などを行い、それぞれが持つ特色ある伝統文化の賑わいを通じて、江差町を訪れた方々に「江差の五月は江戸にもない」を体感していただけるよう、関係機関や団体と連携して地域経済の活性化や観光地としての魅力ある地域づくりに取り組んでいき、「江差ファン」として関係人口の創出を図っていきます。

▲ニシン漬け

②荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

石狩市・小樽市・函館市・松前町

ストーリー

日本海沿岸や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通ずる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を超え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られたた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

■主な構成文化財

日和山、旧北浜地区倉庫群、旧魁陽亭、沖口役所跡、松前屏風、松本家土蔵及び松本家資料、福山城下町遺跡、龍雲院

◀ジオラマ「北前船とニシン漁場」

▶高田屋嘉兵衛像

地域活性化に向けて

番屋や商店として使われていた建物を資料館として活用しているほか、構成文化財が多く集まる本町地区では、「いしかりガイドボランティア」による見学ツアーを開催しています。【石狩市】

「北前船子どもフェリー使節団」を企画し、小樽市の小学生が北陸の北前船寄港地をフェリーで訪問し、郷土学習や地域住民との交流を行ないました。また、小樽市内の構成文化財を活用したショップでは北前船にちなんだ商品や地元産品の販売や情報発信を行っています。【小樽市】

「箱館」のまちづくりに積極的に投資した高田屋嘉兵衛の功績を伝える副読本を作成し、市内の小学校 3年生向けに配布しました。また、ストーリーを構成する文化財を紹介するとともに、北前船によって各地へと運ばれていたとされる、食材のPRを行っています。【函館市】

認知度向上のため、町外構成団体（東北地方等）への構成文化財の貸出や相互での巡回パネル展の開催、地域での講演会等を実施し、周知を図っています。また、関係団体と連携しながら、SNS等による情報発信の拡充を図っています。【松前町】

③カムイと共に生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに～

大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会

ストーリー

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた"上川アイヌ"。

彼らは激流迸る奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続けます。

上川アイヌは「川は山へ溯る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミンタラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。

■主な構成文化財

大雪山、川村カ子トアイヌ記念館、神居古潭、嵐山

◀アイヌ古式舞踊

▶大雪山 カムイミンタラ

地域活性化に向けて

上川アイヌを「知る」「見る」「触れる」「訪れる」機会を創出することを軸に据え、認知度のさらなる向上を目的とし、この地域に幾度となく訪れたいと思うエリアとして魅力向上に取組んでいます。日本遺産のストーリーを体感できる旅行商品の開発、販売促進、認知促進、リピーター獲得への行動を展開しています。幅広い層を対象としたアイヌ文化等を認知できるプロモーションにより、各自治体が展開する本圏域の魅力発信及び、周遊促進を目指し、により、圏域外からの集客により地域活性化を図っています。

大雪山麓上川アイヌのポータルサイトをはじめ、圏域内外へのプロモーション活動、日本遺産ポータルサイトを活用したプロのライターによる本圏域の魅力発信による日本遺産ブランドの普及、情報発信を推進すると共に、各種補助事業の活用を模索しながら効果的な取り組みを検討しています。

④本邦国策を北海道に観よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～

炭鉄港推進協議会

ストーリー

明治初期に新たに命名された「北海道」は昭和の高度成長期までの百年の間に人口が百倍となる急成長を遂げました。この成長の中核となったのが石炭産業であり、空知の「炭鉱」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた歴史が北の産業革命「炭鉄港」の物語です。

約百キロ圏内に位置し、近代北海道を築く基となったこの三都（空知、室蘭、小樽）を原動力として、大きく発展を遂げた北海道。炭鉱遺産や工場景観、港湾や鉄道施設などが今もなお、歴史をたどる文化財や遺産として存在し、訪れる人に北海道のまだ見ぬ魅力を語っています。

■主な構成文化財

住友赤平炭鉱杭櫓・周辺施設、旧手宮鉄道施設、室蘭市旧室蘭駅舎

地域活性化に向けて

北海道近代化のストーリーである「炭鉄港」を次の世代に繋いでいくこと、その魅力を発信し、全国から様々な方々を呼び込むことを目的に、人材育成や交流人口の拡大に取り組んでいます。これまで「次代につなぐ」「地域で稼ぐ」をテーマに、小学生向けの学習教材の作成や、ガイドの養成、「炭鉄港カード」の配布、当時の産業や暮らしを知る人の言葉を後世に残す映像「炭鉄港の証言」の制作、日本遺産にまつわる食文化「炭鉄港めし」の調査、普及啓発など様々な事業に取組んできました。「炭鉄港めし」の取組では、セブンイレブンでの商品発売など民間企業と連携した普及啓発を実施するなど、「炭鉄港めし」の地域における定着、地域内外での認知度向上を推進しました。今後は、インバウンドの受入体制整備や、航空会社と連携した全国向けプロモーションなど、更なる交流人口の拡大を目指すとともに、地域の歴史や文化に住民が誇りと愛着を持ち、積極的に発信したくなる遺産として住民理解を深める取組を推進していきます。

▶「炭鉄港めし」カレーそば

⑤「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～

鮭の聖地メナシネットワーク協議会

ストーリー

北海道最東の海、根室海峡。この地では、遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。

■主な構成文化財

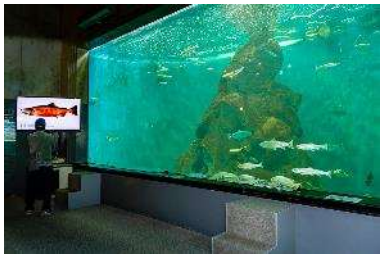
野付半島、松法川北岸遺跡出土品、標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡、根室半島チャシ跡群

▲西別鮭山漬けの寒風干し

地域活性化に向けて

認定地域である根室海峡沿岸の4市町、標津町・根室市・別海町・羅臼町の全体を屋根のない博物館に見立て、認定ストーリーをテーマとするエコミュージアム化を進めています。具体的には標津サーモン科学館にストーリー全体を紹介する鮭の聖地エキシビジョンルームを整備し、各市町の博物館系施設をサテライト拠点として整備しました。ストーリーを紹介する動画やパンフレット等を作成するなど、鮭の聖地を象徴する12のエピソードと、それにまつわる関連文化財群をめぐる情報発信を行っています。

また、認定ストーリーをベースに、地域生産品に焦点をあてたサブストーリーを作成し、生産品を通じたストーリーブランディングを進めているところです。



▲標津サーモン科学館

【候補地域】

⑥北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

小樽市

ストーリー

小説家・小林多喜二は小樽のまちを北海道の「心臓」と表現しました。明治中期以降、豊富な北海道の資源の物流拠点となった小樽は、「北日本随一の商都」として、「民の力」でまちをつくりあげましたが、石炭から石油へのエネルギー転換により、高度経済成長期に衰退しました。荒廃した運河を埋め立てて道路を建設する都市計画が決定しましたが、取り壊される倉庫を見た市民が「まちの記憶」を守るため運河保存運動を始めます。10年にもわたる運動の結果、運河の一部を散策路として整備し、観光都市・小樽の礎となりました。歴史をいかす新たな展望を示した運動は、日本のまちづくり運動の先駆けとなり、小樽に生きる人々が、遺産に新たな命を吹き込み、もう一度『心臓』を動かすことで、今もその鼓動を感じとることができるのです。

■主な構成文化財

小樽運河、小樽運河を守る会関係資料、色内銀行街、旧手宮鉄道施設、旧日本郵船株式会社小樽支店及び附属倉庫群

地域活性化に向けて

小樽運河百年を記念して、20～30代を中心にした実行委員会がロングランイベントとして、運河沿いのナイトマーケットなどの景色とグルメを楽しむナイトタイムエコノミーの創出や、重要文化財に指定されている「旧三井銀行小樽支店」を会場とした「重要文化財パーティー」など高付加価値化を追求した5つの企画を開催しました。

また、小樽市日本遺産地域プロデューサーの育成ワークショップを行うことで潜在していた人材やスキルの掘起しを行っています。各プロデューサーが着地型旅行商品の造成や日本遺産周遊アプリの開発、体験型商品「おたるハート缶」の開発、インスタグラムなどのSNSでの積極的な情報発信などそれぞれの得意分野をいかした活動を行っていることは人材育成の大きな成果であり、地域のブランド化へ繋がっています。

▼小樽運河100年記念

 本記事の内容は、総合政策部地域創生局地域政策課で担当しております。
〇事業に関するお問い合わせ先　TEL:011-204-5800

置戸町

温泉入浴施設「ゆうゆ」を拠点とした観光振興

～トレーラーハウスでアウトドア層の取り込みを～

おけと勝山温泉ゆぅゆ外観

今回は、置戸町における「おけと勝山温泉ゆぅゆ」を拠点とした交流人口拡大に向けた取組を紹介します。

置戸町の現状と課題

オホーツク管内の南西端に位置する置戸町は、林業と農業の盛んな町で、面積の8割を森林が占め、〝オケクラフト〟と呼ばれる木工芸活動も盛んな地域です。

置戸町では、就業等の場が少ないことから20代前後の若者が大学進学や就職のため札幌市や近隣自治体に転出するなど、他自治体と同様に人口減少や少子高齢化による地域産業の担い手不足などの課題があります。こうした課題への対応のひとつとして「ゆぅゆ」を核として町の特色をいかした産業の振興や人材育成に取り組んでいます。

地域の憩いの場と観光拠点「ゆぅゆ」

「おけと勝山温泉ゆぅゆ」は、市街地から離れた勝山地区に位置し、近隣にパークゴルフ場や農園が広がる自然豊かな地域で、源泉掛け流しの温泉のほか、レストラン等の休憩施設も充実した公営の温泉入浴施設として平成6年にオープンして以来、地域住民の交流拠点はもとより、観光拠点として機能してきました。オープン翌年の平成7年には入浴者数が15万人を超え、平成12年に敷地内に掛け流し温泉付きのコテージを設置するなど、町の新たな観光資源として注目されますが、その後は運営母体であった第3セクターの撤退、町内・町外事業者（指定管理者）の撤退が相次ぎ、平成26年には一度、運営休止の危機を迎えます。

しかし、町民の交流の場である「ゆぅゆ」の存続を強く願う町内の商工業界をはじめ関係団体代表等町民有志が立ち上がり、「（一般社団法人）おけと勝山温泉ゆぅゆ」を指定管理者として設立し、平成29年にリニューアルオープンを迎えることができました。

トレーラーハウスの導入

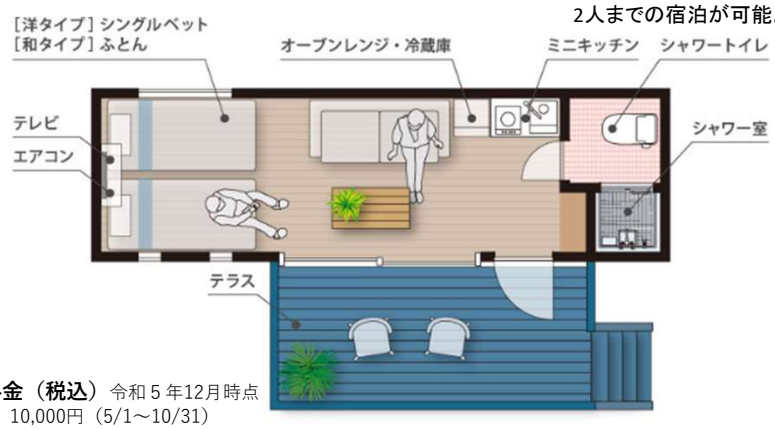
リニューアルオープン後、町民の憩いの場かつ町の観光拠点として、町の地域振興の中心となっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を

受け、令和2年度は5万4千人程度まで利用者数が落ち込み、コロナ禍による人々の行動変容に適切に対応することが求められました。そのような中でも「ゆぅゆ」内に設置されたコテージは、密を避けて温泉を楽しめるということで、コロナ禍でも安定した稼働率を維持していました。こうした人々の行動変容を好機と捉え、令和3年10月、町は国の補助金を活用して、5台のトレーラーハウスを導入しました。新たなトレーラーハウスは、感染者の隔離施設や診療施設として利用できること、災害時に避難所や仮設住宅として活用できることなど、その多様性や導入のしやすさも導入の決め手となりました。

置戸町では、アウトドア層や手軽にグランピングを楽しみたいファミリー層を町に呼び込み、温泉入浴施設「ゆぅゆ」と一体とした、これまでにない「おもてなし」を提供するため、通常時はトレーラーハウスを「ゆぅゆ」敷地内に設置しました。

▶朝食は各トレーラーハウスに運んでもらえる。北見市のフランス料理店「メゾン・ブレイズ」監修の洋食プレートか、「日本一の給食」として有名となった町内の元管理栄養士監修の健康朝食から選ぶことができる。

▼トレーラーハウスの展開図。
寒冷地仕様で冬でも快適。
2人までの宿泊が可能。



▲5棟全てに部屋のテーマがあり、インテリアが違う。ベットタイプと布団タイプがあり、布団タイプは幼児一名の追加宿泊が可能。

○**利用料金（税込）** 令和5年12月時点
夏機関　10,000円（5/1～10/31）
冬期間　8,000円（11/1～4/30）
繁忙期　12,000円（土曜、祝前日、5/2～5/5、7/25～8/20、12/31～1/2）

▼おけと勝山温泉ゆぅゆの年間入浴者数、
コテージ稼働数及びトレーラーハウス稼働数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (9/30まで)
入浴者数	54,485名	66,715名	76,555名	35,283名
コテージ稼働数 (棟・稼働率)(4棟)	1.000棟 (69.6%)	1,135棟 (79.0%)	1,223棟 (85.1%)	564棟 (79.2%)
トレーラーハウス稼働数 (棟・稼働率)(5棟)	–	376棟 (10/1～) (42.2%)	810棟 (46.1%)	518棟 (60.9%)

新たなアウトドア層の取り込み

トレーラーハウスには、簡易キッチンや食器、寝具、シャワー室が完備されており、夕食にバーベキューの提供やテントの貸し出しなど、手軽にグランピングを楽しめるコースが設けられ、近年のアウトドア人気の高まりに付随し、着実に宿泊実績を伸ばしています。

町観光協会が新たに進めているサウナイベントでは、トレーラーハウス全棟を活用し、バレルサウナやサウナカー等を用いた宿泊者向けのイベント等も企画しており、「ゆぅゆ」と連携した新しい取組を行う予定です。

また、提供する朝食が置戸町の特産品にこだわった朝食をオケクラフトの器とともに楽しめるなど、SNSを中心に話題となりました。

これらの取組が、感染症の流行により確立された新たな観光スタイルに合致したことにより、令和4年度の「ゆぅゆ」入浴者数はリニューアル後最高の7万6千人以上、本年度は9月末時点で3万5千人以上の入浴者数を計上しています。

今後は、町観光協会との連携によるアウトドア層をターゲットとした体験型観光商品の開発やワーケーションによる長期滞在など、関係人口の拡大に向けて様々な活用を検討しています。

「ゆぅゆ」に込められた思い

今回お話を伺った町役場産業振興課商工観光係の早坂係長からは「「ゆぅゆ」のことをなんとかしないといけないと、色々な方を巻き込んで作り上げていった点は置戸町の特性だと思います。」と語っていただきました。

また、「町民が集結し、会社を作り、経営するということは、これからの未来の進むべきあり方、地域の在り方ではないか。おけと勝山温泉ゆぅゆは、町民の宝であり、町民含め多くの利用する方々にもそう思い続けてほしい」と深川町長が述べられていることを伺い、今後においても、「ゆぅゆ」を地域振興に据えたまちづくりに取り組みたいという町の熱い思いが伝わってきました。

本記事の内容は、置戸町産業振興課で担当しております。
○事業に関するお問い合わせ先　TEL:0157-52-3313

『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～

鶴居村で新たな特産品となったクラフトビール。醸造所は小学校の廃校舎を活用。

釧路編

なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和5年8月8日訪問 ブラッスリー・ノット 編

今回まずご紹介するのは、鶴居村にあるクラフトビール醸造所「Brasserie Knot（ブラッスリー・ノット）」です。

ブラッスリー・ノットは、村内にあった旧・茂雪裡（もせつり）小学校の廃校舎を改装し、令和4年8月に開設されました。代表取締役で自ら醸造家でもある植竹大海（うえたけひろみ）さんは、「クラフトビールを地域の文化と結び付け、新たな文化として根付かせたい」という想いで鶴居村に移住されました。

「Knot」は「結び目」という意味で、地域や豊かな自然、訪れる人々との結び目が生まれる場所でありたいとの願いが込められています。現在は、年間約8千リットルが生産されており、醸造されたクラフトビールは、鶴居村のふるさと納税の返礼品としても人気を博しています。

ふるさと納税の返礼品としても人気を博している▼

また、9名いるスタッフも全員が本州からの移住者であり、醸造所には、スタッフとコミュニケーションをとりながら気軽に購入できる直売所を併設するなど、ビールの魅力を通じて、鶴居村との新たな出会いを紡いでいます。

「地域の皆さんにも支えていただき、楽しく仕事ができているので、やって良かったなと感じている（植竹代表）」とお話されているのが印象的でした。植竹代表は「醸造アドバイザー」として人材育成のコンサルティング事業も行っており、道内でも個性豊かなクラフトビール醸造所が続々と誕生している中、今後ますますの活躍が期待されます。

醸造設備について説明する植竹大海代表（写真右）◀

当日の知事の言葉から

道内各地域でクラフトビールの取組が盛んになってきており、地元食材とのコラボなど、色々な形で地域の魅力が高まり、地域全体としての活性化に通じる取組だと感じました。

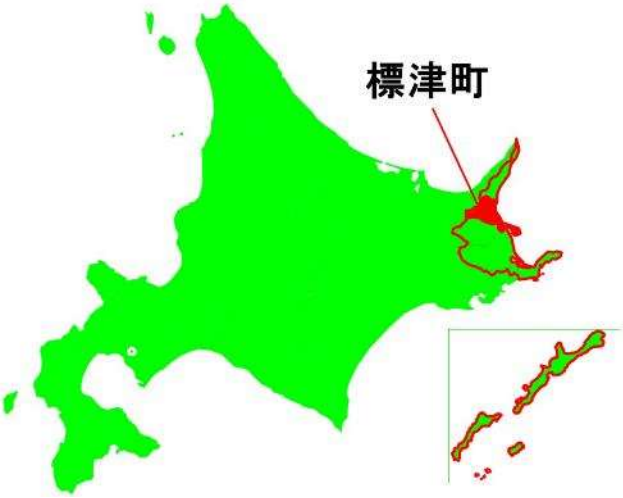
地域で実践し、成功している方の姿が第2、第3の挑戦者に繋がっていくと思うので、今後も様々な機会を通じて、取組や経験を共有いただけるとありがたいです。

▶鶴居村ふるさと納税特設サイトでは、クラフトビールとコラボで地域の食材などもPR

なおみちカフェ（鶴居村）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

根室編

▲ポー川史跡自然公園には、一万年の昔から連綿と人の暮らしが続いた古代遺跡と、その周辺の自然環境が一体的に保存されている。



令和5年9月6日訪問

ポー川史跡自然公園 編

次に、標津町にある「ポー川史跡自然公園」についてご紹介します。

「北海道開拓以前の文化的景観を体験・体感できる場所」をコンセプトとしたこの公園には、日本遺産「『鮭の聖地』の物語」の構成文化財「伊茶仁（いちゃに）カリカリウス遺跡」と天然記念物「標津湿原」が国指定文化財として保存されています。

遺跡群に残る竪穴住居跡の窪みの数は約４千４百もあり、国内最大規模を誇るとともに、あらゆる時代の竪穴から多量のサケ科魚類の骨が見つかるなど、約一万年前から、鮭を支えとして人々の暮らしが続いてきたこの地域の豊かな自然環境をうかがい知ることができます。

▲出土品の展示。公園の多様な魅力をより深く体験・体感するため、散策前にビジターセンターの展示を見学するのがお勧め。

標津町では、こうした地域の歴史・文化教育にも力を入れており、山口将悟町長からは、「カムバックサーモンのように、子ども達が一度地域を出て行っても、また帰ってくるような教育を進めている」とお話がありました。実際に、最近はUターンされる方も増え、起業家などとして活躍している若い世代も多いとのことです。

公園内では、湿原木道の散策やカヌーなども用意されており、様々なアクティビティを通じて、雄大な自然や歴史を体感することができます。また、日本遺産を巡るツアーなど、根室海峡沿岸１市３町が連携し、日本遺産を活用した地域振興を図る取組も進められています。アドベンチャートラベルが注目を集める中、今後の取組がますます期待されます。

▲竪穴住居跡の窪み。およそ一万年前からほぼ途切れることなく、人々がこの地に暮らしてきた。

当日の知事の言葉から

子どもの頃に、地域の歴史や一万年も続いたストーリーについて学習機会を得たことが、郷土愛やまちの誇りに繋がり、実際に町に戻って来るというのは、素晴らしいことだと感じました。

実際に見て触れて、今なお、鮭が人々の営みを支えていることに、想いを馳せる大切な時間を過ごすことができました。

▶公園内ではカヌーをはじめ、様々なアクティビティが体験できる。

なおみちカフェ（標津町編）の動画はこちらからご覧いただけます。（YouTubeチャンネル）

地域に新たな風を吹き込む
地域おこし協力隊へのインタビュー

道内の地域おこし協力隊は、毎年増加し、地域活性化はもとより、地域の担い手確保など、人の流れをつくるきっかけづくりとして定着しています。全道各地で地域に新たな風を吹き込む存在として地域振興の様々な場面で活躍する隊員へのインタビューをシリーズで紹介し、活動を応援します。

第三弾

白老町 地域おこし協力隊 羽地（はねじ） 夕夏（ゆうか）さん

【プロフィール】
沖縄県出身。金沢大学を卒業後、都内出版社に勤務。2022年5月から白老町の地域おこし協力隊として活動中。

▼白老町の協力隊となった経緯を教えてください。

幼い頃から本が好きで、大学卒業後は出版社に勤めていました。移住のきっかけは、昨年、白老在住の友人から、「白老町には本屋がない」と聞いたことです。「ちいさな本屋なら自分でもできるかも！」と思い立ちました。実は、大学在学中に白老町を訪れたことがあり、自然が豊かで面白い人が多く、居心地の良い場所だと感じていました。そんなご縁のある土地だったからこそ、白老町に地域おこし協力隊として移住することを決めました。

▼現在までの白老町での活動内容について教えてください。

活動開始当初は、町内で物件を借りて書店を開こうと考えていましたが、移住してきたばかりで、なかなか物件が見つかりませんでした。そんな中、町内でカメラ屋を営んでいる方からアドバイスを受け、移動本屋を思いつき、「またたび文庫」として、町内外の様々な場所で出店することとしました。移動本屋は週5回のペースで、出店場所のお客様の層に合わせ、小説や雑誌、図鑑などの本を100冊ほど持って、町の元隊員が経営しているゲストハウスや、観光協会、古い酒蔵を活用したイベントスペースなど、様々な場所に出店していました。夏場の土日は洞爺湖町や札幌市にも出店していましたので、昨年の10月まではアクティブに活動していたと思います。

その後は、先輩隊員が町内で使わなくなった物件を見つけてくれたため、最初は改装せずに、マルシェや作家さんのトークイベント、映画鑑賞会などを開催していました。これまでの移動本屋の活動が、広報誌や新聞で取り上げられていたこともあり、イベントには町の方にもたくさん参加していただきました。

▲　昨年のイベントの様子。こちらの建物は、以前町の商店会が事務所として使用しており、現在、内装を改修中。
今後は本だけではなく、様々な文化の拠点としていきたいとのこと。

▼手応えを感じていること、やりがいを感じていることを教えてください。

出版社に勤務していた時は、作った本を書店に流すだけで、その本を誰が手に取ったのかも分かりませんでした。しかし今は、人の顔が見える活動ができていると思っています。活動を通して、様々な場所で、幅広い年齢層の方と直に接することができるので、地域の人の反応を見ながら活動できることが良いなと感じています。また、地域の方と連携し、地域内外の店舗を集めたマルシェの開催や、アイヌ文化や漁業文化を発信するイベントができることにもやりがいを感じています。

▼任期中や任期終了後にどのような活動をしていきたいか教えてください。

まずは、来年5月のオープンに向けて、この物件の改修を今年中に終わらせ、今以上に「またたび文庫」を知っていただけるようPRしていこうと考えています。オープン後からは、経営面で自立できるようにやっていくだけではなく、さらに幅広いお客様に来ていただけるように、住民の方がどのような本を求めているのか理解を深めていきたいです。将来的には、この「またたび文庫」という場所を多様な文化の混ざり合うスペースにし、白老町の文化をさらに広げていきたいと思っています。

▲　来年５月のオープンに向け内装工事中（写真下）。上の写真は外観。内装のフローリングには元厚真町地域おこし協力隊員が製材した板を使用。

第四弾

岩見沢市 地域おこし協力隊 藤嶋 裕介さん

【プロフィール】
岩見沢市出身。酪農学園大学で野生動物管理学を専攻。卒業後は新潟県粟島浦村の地域おこし協力隊として約120頭のニホンジカを狩猟。2022年5月から岩見沢市の地域おこし協力隊として活動中。

▼岩見沢市の協力隊となった経緯を教えてください。

私は岩見沢市出身で、幼少期から昆虫や植物、野生動物、自然に興味がありました。酪農学園大学では野生動物管理学を学び、どうしたら野生動物を適切な数にできるのか、ということを勉強していました。また、在学中に狩猟同好会を立ち上げ、岩見沢市で狩猟をしている原田さん（のちの師匠）と出会い、猟の方法を教えてもらっていました。そうした経験から、大学卒業後は地元で狩猟の仕事がしたいと思っていましたが、当時は岩見沢市で獣害対策人材を採用する予定がなかったため、インターンとして参加していた獣害対策コンサルティング会社の紹介で、新潟県粟島浦村で地域おこし協力隊として獣害対策の武者修行をすることとなりました。人口300人ほどの島では、自由なフィールドでシカの生態を研究しながら、島全体の生態系保全のため、3年間で約120頭のニホンジカを捕獲しました。任期終了後、大学在学中に知り合った岩見沢市役所の担当者から後継者として帰ってきてほしいと声をかけられ、地元に戻り、協力隊として活動することになりました。

▼現在の業務内容について教えてください。

農業被害対策の一環として岩見沢市の東部丘陵地域（毛陽町・朝日町等）で狩猟活動を行っています。基本的には鉄砲を使わず、足跡を追ってくくり罠を仕掛けることで狩猟をしています。農地の近くで鉄砲を使うと怖い思いをする方がいるかもしれないからです。あまり鉄砲を使わないのは、師匠の教えでもあります。

狩猟の様子は見学・体験もでき、札幌市などから野生動物に興味のある若者、親子連れや主婦の方まで幅広い層を受け入れています。最近は解体・加工した鹿肉を市内のホテルや飲食店で取り扱ってもらっています。

▲ヒグマを捕獲する罠を確認している様子。

▼業務に取り組む中で、手応えを感じていること、やりがいを感じていることを教えてください。

今年は特に熊の被害が多かったため、熊対策に力を入れていましたが、その中で農家の方との交流が生まれ、地域に必要とされていると感じたときはやりがいを感じます。また、商品開発した「エゾシカジンギスカン」を地域の商店で販売しており、売れ行きの報告を受けて、地元の商品として認知されていると思うと嬉しいです。

農家の方との交流や地域のイベントなど、業務以外でもフットワークを軽く参加していくことも大切だと考えています。

▼今後、任期中や任期終了後にどのような活動をしていきたいか教えてください。

食肉の販売を始めたばかりなので、販路拡大をしていきたいです。狩猟については、技術をあげて、被害が拡大している熊対策について、安心して任せてもらえる人材になりたいです。

今後は、岩見沢市を拠点としつつ、他の自治体からも依頼されるような獣害対策を担う会社を作りたいです。捕獲の指導者として罠の技術を発信することで、鳥獣被害が減っていけばいいなと思います。

▼協力隊の活動を通して感じている岩見沢市の魅力を教えてください。

活動拠点である岩見沢市の東部丘陵地は、紅葉と夕日がとてもきれいです。市街からも車で20分ほどなので、気軽に遊びにきてもらえる場所として魅力を発信していきたいです。

毛陽町では、同じく市の協力隊員がカフェを経営しており、エゾシカ肉を使ったパイを提供しているので、ぜひ来ていただきたいです。

▲藤嶋さんの発案で開発され、期間限定で販売されていたヒグマ肉を使ったハンバーガー「ベア・ブラック・バーガー」。獲った獲物をなるべく有効活用するため、様々な活用方法を模索している。

本記事の取組は、北海道総合政策部官民連携推進局が担当しております。
地域おこし協力隊に関するお問い合わせ先　地域おこし協力隊サポート推進室　TEL:011-204-5791

創る
令和5年12月発行
発行：北海道総合政策部地域創生局地域戦略課　電話（直通）：011-206-7298

北海道

ほしい情報がきっと見つかる！
北海道移住に役立つ情報サイト・SNS

移住ポータルサイト「北海道で暮らそう！」

北海道の市町村情報をはじめ、「しごと」や「住まい」など、暮らしに必要な情報をまとめて発信中！

北海道で暮らそう!

北の大地への移住情報メールマガジン

移住・定住に関するイベントや地域おこし協力隊の募集など、道内市町村の移住関連情報を月２回、隔週木曜日に配信中！

北海道移住後の生活費をシミュレーション！

北海道への移住後の生活費ってどのくらい？家賃や光熱費等、生活費のシミュレーションを道内10エリアに分けて掲載中！

ドアーズ,ホッカイドウ DOORS,hokkaido

道内各地のイベント、暮らしやコミュニティ、新しい「かかわり方」を実践する人たちの情報等、北海道の関係人口情報を発信中！

DOORS. hokkaido
北海道の扉を開こう。

北海道とつながるＳＮＳ 公式YouTube「移住だべさ！北海道チャンネル」

北海道の移住イベント情報など随時配信中！まずはSNSで、北海道とつながりませんか？

Instagram　Facebook　LINE

移住PR動画や移住者インタビュー、北海道の仕事や地域でのワーケーション動画など100本以上公開中！

YouTube

「創る」バックナンバーは、“ほっかいどう応援団会議ポータルサイト“へ

バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議　検索

ＵＲＬ： https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html